

貯法 遮光・冷所保存, 密封容器

注射用ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン

要指示医薬品 指定医薬品

動物用ゴナトロピン® 3000  
GONATROPIN®

## 【本質の説明又は製造方法】

本剤はヒト絨毛性性腺刺激ホルモンの注射用凍結乾燥製剤であり、用時、添付の溶解液により溶解して用います。ヒト絨毛性性腺刺激ホルモンは胎盤由来の糖蛋白質であり、雌性動物に対しては主に黄体形成ホルモン（LH）様作用を持ち、卵胞刺激ホルモン（FSH）様作用は弱く、雄性動物に対しては間質細胞を刺激し、男性ホルモンを分泌させます。

## 【成分及び分量】

品名	動物用ゴナトロピン 3000
有効成分	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン
分量	1 アンプル中 3000 単位
添付溶解液	1 アンプルに対し 0.6 % 塩化ナトリウム溶液 5 mL 1 アンプル

## 【効能又は効果】

馬（雌）：卵胞のう腫、排卵障害、卵胞発育障害（卵巣発育不全、卵巣静止、卵巣萎縮）  
牛（雌）：卵胞のう腫、排卵障害、卵胞発育障害（卵巣発育不全、卵巣静止、卵巣萎縮）  
豚（雌）：卵胞発育障害（卵巣発育不全、卵巣静止、卵巣萎縮）、分娩後の発情誘起  
犬（雌）：卵胞発育障害（卵巣発育不全、卵巣静止、卵巣萎縮）、無発情期における発情誘起  
馬（雄）：精巣機能減退（交尾欲減退）  
牛（雄）：精巣機能減退（交尾欲減退）  
豚（雄）：精巣機能減退（交尾欲減退）

## 【用法及び用量】

添付の溶解液に溶解し、1日1回1頭当たりヒト絨毛性性腺刺激ホルモンとして下記の量を注射する。

馬（雌）：1,500～6,000 単位（筋肉内、皮下注射）  
牛（雌）：1,500～10,000 単位（静脈内、筋肉内又は皮下注射）。  
但し、卵胞のう腫の場合はこの腫腔内、卵胞発育障害の場合は卵巣実質内に1,500～3,000 単位を注射する。  
豚（雌）：1,500～3,000 単位（筋肉内注射）  
犬（雌）：150～3,000 単位（筋肉内注射）  
馬（雄）：1,000～2,000 単位（筋肉内注射）3日ごとに投与する。  
牛（雄）：1,000～2,000 単位（筋肉内注射）3日ごとに投与する。  
豚（雄）：1,000～2,000 単位（筋肉内注射）3日ごとに投与する。

## 【使用上の注意】

## （基本的事項）

## 1. 守らなければならないこと

## （一般的注意）

- 本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- 本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。
- 本剤は定められた用法・用量を厳守すること。

## （取扱い及び廃棄のための注意）

- 本剤は、溶解液に混和後直ちに振盪溶解し、速やかに使用すること。

- 使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- 使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。
- 注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く。）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- 小児の手の届かないところに保管すること。
- 本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。

## 2. 使用に際して気を付けること

## （使用者に対する注意）

- 誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

## （対象動物に関する注意）

- 本剤の投与前には健康状態について検査し、使用の可否を決めること。
- 副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

## （専門的事項）

## ①重要な基本的注意

- 本剤の反復投与により、抗ホルモン抗体が産生され効果を減ずることがある。
- 本剤の静脈内注射はできるだけ緩徐に行うこと。

## ②相互作用

- 本剤を血清性性腺刺激ホルモン（PMS）と併用して投与すると過排卵を起こし、多胎妊娠することがある。

## ③副作用

- 本剤の投与により、過敏性反応を起こすことがある。

## 【薬理学的情報等】

## （薬効薬理）

- LH（あるいはICSH）作用を示し、FSH作用を併有する（ラット）。
- 排卵を誘発し、黄体を形成させる。また、黄体ホルモンの産生を促進する（ウサギ）。
- Leydig細胞の発育を促進し、男性ホルモンの合成と分泌並びに精子形成能を高める（ウサギ・ブタ・ヒト in vitro, ラット）。
- 母体の免疫能、特に細胞性免疫能を低下させる（ヒト in vitro）。

## 【包装】

動物用ゴナトロピン 3000：3000 単位×5（アンプル）

[溶解液：0.6% 塩化ナトリウム溶液 5 mL×5（アンプル）添付]

## 【製品情報お問い合わせ先】

あすかアニマルヘルス株式会社

〒108-8532 東京都港区芝浦二丁目5番1号

TEL：03-5439-4188

**【電子添付文書情報】**

以下より、添付文書情報が確認できます。



あすかアニマルヘルス HP

農林水産省  
動物医薬品検査所データベース



製造販売元

**あすかアニマルヘルス株式会社**

東京都港区芝浦二丁目5番1号  
TEL. 03-5439-4188 FAX.03-5439-4191

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発症に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するために必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。